

# 令和5年度 全国学力学習状況調査の結果について

令和5年9月6日  
京都市立紫明小学校  
校長 石田 淳

今年度、4月18日に本校6年生を対象に実施された「全国学力調査」について、結果をお知らせします。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

## 【総合結果（国語・算数）】

国語科、算数科2教科とも、全国ならびに京都府、京都市の平均正答率を上回る結果で、学力が定着していることが分かります。また無解答も少なく、「解らない」「できない」と諦めず、自分なりに答えを導きだそうとしている様子が見られます。

## 【国語】

全体的によくできています。特に、文章を読み、「自分の考えが伝わるように書き方を工夫する」「読んで理解してことに基づいて、自分の考えをまとめる」「話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる」問題は全国平均をかなり上回る結果でした。また、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で使う」「日常よく使われる敬語を理解している」という問題も全国平均をかなり上回っていました。

一方で、「図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」「目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして、必要な情報を見つける」問題では、全国平均を上回っているものの正答率が低かったです。

これらのことから、必要な情報を見つけ、文章や図表などに結び付けたり、根拠を示し自分の考えを書いたり、その際比較しながらなど、決められた条件や文字数で書いたりすることにおいて課題が見られました。

## 【算数】

全ての問題で全国平均を上回る結果でした。特に、分配法則を利用したり、2つの数量関係や量の変化から読み取ったりして計算することにおいては、正答率も高く、全体的によくできています。

一方で、図形の問題では、全国平均を大きく上回り、無解答率も低いが、本校全体の正答率として約60%と低かったという結果になりました。その中でも「正方形の意味や性質についての理解」は正答率約94%でしたが、「正三角形の意味や性質」「高さが等しい三角形を、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を説明する」問題では、どちらも正答率が約60%となりました。三角形の特徴は分かっているが、角度や辺の長さ、面積を正確に求められないという結果になりました。

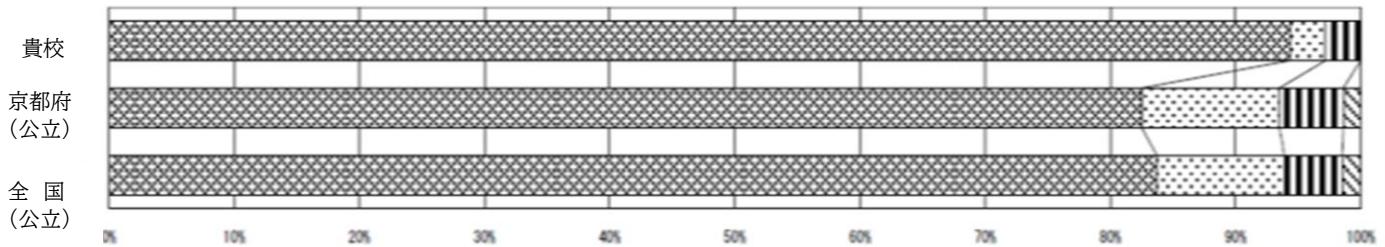
その他にも、示されたグラフから見出した違いを言葉と数を用いて記述する問題の無解答率が、ほかの問題に比べ高かったです。

のことから、式を見て計算することについては、かなり正確にできるが、答えを導いた根拠や過程の説明については、課題が見られました。

## 【児童質問紙より】

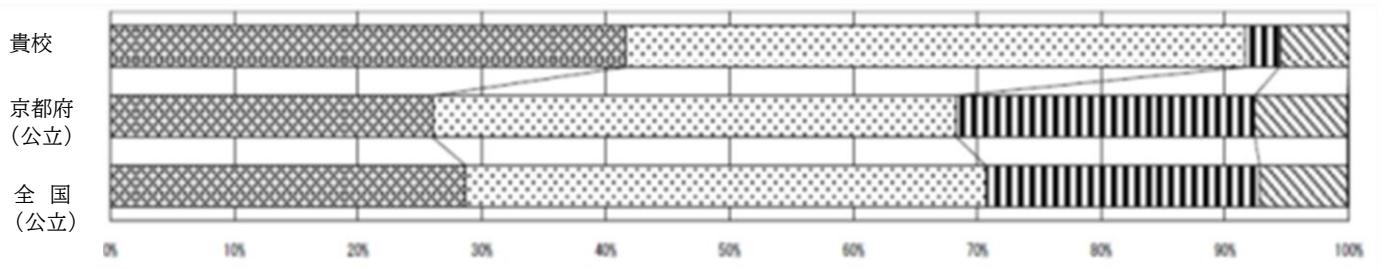
### ◎朝食を毎日食べていますか

■1.当てはまる ■2.どちらかといえば、当てはまる ■3.どちらかといえば、当てはまらない ■4.当てはまらない ■その他 ■無回答



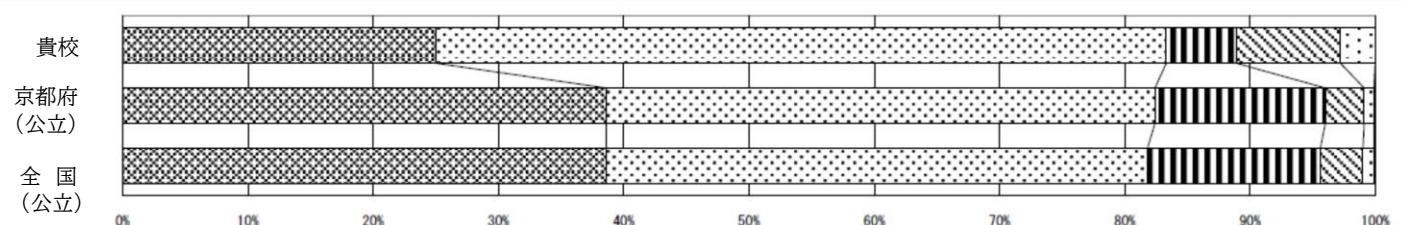
この質問ではプラス評価(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)が97.2%でした。全国と比べても、朝食の大切さを理解し、取り組んでいることがわかります。同様に2問目、3問目には寝起きの時刻についての質問がありました。この項目の結果も本校は大変高いプラス評価でした。「規則正しい生活」について児童の意識や実践力が高いのは、普段からご家庭でもご協力いただいている結果ではないかと思われます。

### ◎家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む)



家庭での学習に対し、自分で計画を立てて勉強しているという児童が、京都府・全国と比べて多くいました。「自ら」や「進んで」ということが求められる現在、本校の児童は良い習慣がついていることがわかります。

### ◎学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。



この質問では「当てはまる」と答えた児童が、京都府・全国に比べて少なく、「当てはまらない」と答えた児童が京都府・全国に比べて多いという結果になりました。しかし、「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童が58.3%と京都府・全国と比べて多くいました。本校が目指している「対話を通して学び合う子」に育てるために、話し合いの機会を様々な学習を通して行い、意味あるものにしていくことを大切にていきたいと思います。

今年度、あいさつを通し、繋がりを深め、協力し創り上ることのできる児童を目指しています。そのためには教科学習だけでなく、学校行事等の様々な取組の中に、そのチャンスを作っていくことを考えています。今後も学校と家庭の連携で学習効果を高めていけるようにしていきたいと考えます。子どもたちの健やかな育ちと学びの実現にご協力をお願いします。